



新指定文化財『ぜんだない せきしゅつどじょうもん ど き およ どせいひん膳棚遺跡出土縄文土器及び土製品』

平成 30 年 7 月 1 日、市指定史跡の膳棚遺跡の第 1 次・第 2 次発掘調査(昭和 42 年(1967))にて出土した縄文土器と土製品 50 点が、新たに市の有形文化財(考古資料)に指定となりました。

指定資料を含む第 1 次・第 2 次調査の出土遺物は、平成 27 年度から平成 29 年度にかけて埼玉県から所沢市へ譲与されました。

これらの資料は、縄文時代中期の文化や社会を研究する上で貴重であり、遺跡とともに後世へ引き継ぐ必要があります。そのため、譲与されたことを機会として、出土した土器と土製品から状態のよいものを選定し指定しました。

第 1 次・第 2 次調査で出土した遺物は、縄文時代中期の武蔵野台地に一般的に見られる勝坂式土器かつさかと加曽利 E 式土器かそりが大半です。勝坂式土器は、把手や突起状の飾り付け、隆帯りゅうたいで楕円形などの模様を繰り返すものです。加曽利 E 式土器は、口縁部と胴部の文様帯を分け、隆帯ちんせんや沈線などの装飾を施すものです。

出土土器はそれぞれの土器型式の特徴をよく表しています。12 号住居跡からは、勝坂式土器から加曽利 E 式土器への移行期の特徴をもつ土器が出土しており、転換期の土器のあり方を示す好例といえます。

* 次ページ以降で全 50 点を掲載しています。

市指定史跡『膳棚遺跡』(昭和 44 年(1969) 6 月 27 日指定) について

膳棚遺跡は、六ツ家川を南に臨む武蔵野台地上の標高 80m~90m に立地し、遺跡範囲は東西約 550m、南北約 340m の縄文時代中期(約 5,000 年から 4,000 年前)の集落跡です。

昭和 42 年(1967)、遺跡の西半分が集合住宅地の建設計画範囲になり、市内で初めての大規模な発掘調査が実施されました。第 1 次調査(同年 3 月)は所沢市教育委員会が、第 2 次調査(同年 7~8 月)は埼玉県教育委員会が主体となって実施され、住居跡を 53 軒検出し、調査当時は関東でも有数の集落跡でした。

発見された多数の住居跡や土坑群等の遺構、土器・石器等の出土遺物は、縄文時代中期の文化や社会を研究する上で貴重な資料となりました。特に住居跡は重複・拡張されたものが多

数確認され、この時代の人々が長期間この地に定住していたことがわかりました。また、出土土器の分析から土器の型式細分が試みられ、縄文土器の研究を進展させることとなりました。



第 6 号~第 10 号住居跡(調査当時の写真)

所沢市指定有形文化財 考古資料

『膳棚遺跡出土縄文土器及び土製品』 全50点



新 指定となった『膳棚遺跡出土の縄文土器と土製品』全50点の掲載です。*印がついたものは、埼玉県立歴史と民俗の博物館で展示中です（平成31年（2019）3月現在）。それ以外のものは、市内の埋蔵文化財調査センターで収蔵しており、一部を同センター内で展示しています。

名称表記のカッコ内は、土器の型式細分です。「勝坂」「加曽利」などの名称は、型式を細分する際に標識となった土器が出土した遺跡名に由来（例：神奈川県相模原市の勝坂遺跡）しています。



No.1 深鉢(勝坂Ⅰ)



No.2 深鉢(勝坂Ⅲ)



No.3 深鉢(加曽利EⅠ)



No.4 深鉢(加曽利EⅠ)



No.5 深鉢(勝坂Ⅰ)



No.6 深鉢(加曽利EⅣ)



No.7 深鉢(勝坂Ⅲ)



No.8 深鉢(勝坂Ⅲ)



No.9 深鉢(勝坂Ⅲ)



No.10 深鉢(加曽利EⅠ)



No.11 深鉢(加曽利EⅠ)



No.12 深鉢(加曽利EⅠ)



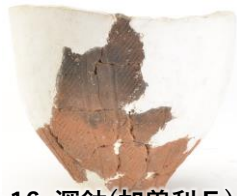
No.13 浅鉢(加曽利EⅠ)



No.14 深鉢(加曽利EⅠ)



No.15 深鉢(阿玉台Ⅱ)



No.16 深鉢(加曽利E)



No.17 深鉢(加曽利EⅠ)



No.18 深鉢(加曽利EⅠ)



No.19 深鉢(曾利Ⅱ)



No.20 深鉢(加曽利EⅢ)



No.21 深鉢(加曽利EⅠ)



No.22 深鉢(加曽利EⅠ)



No.23 深鉢(加曾利 E I)



No.24 深鉢(勝坂 III)



No.25 深鉢(阿玉台 II)



No.26 浅鉢(加曾利 E)



No.27 深鉢(加曾利 E I)



No.28 深鉢(加曾利 E II)



No.29 深鉢(曾利 III)



No.30 深鉢(加曾利 E I)



No.31 深鉢(加曾利 E I)



No.32 深鉢(加曾利 E I)



No.33 土偶



No.34 深鉢(加曾利 E II)



No.35 深鉢(加曾利 E I)



No.36 深鉢(加曾利 E II)



No.37 深鉢(加曾利 E II)



No.38 深鉢(加曾利 E)



No.39 深鉢(加曾利 E I)



No.40 深鉢(勝坂 III)



No.41 深鉢(勝坂 III)



No.42 深鉢(加曾利 E)



No.43 深鉢(加曾利 E II)



No.44 深鉢(加曾利 E II)



No.45 深鉢(加曾利 E II)



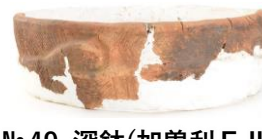
No.46 深鉢(勝坂 I)



No.47 深鉢(勝坂)



No.48 浅鉢(阿玉台 I b)

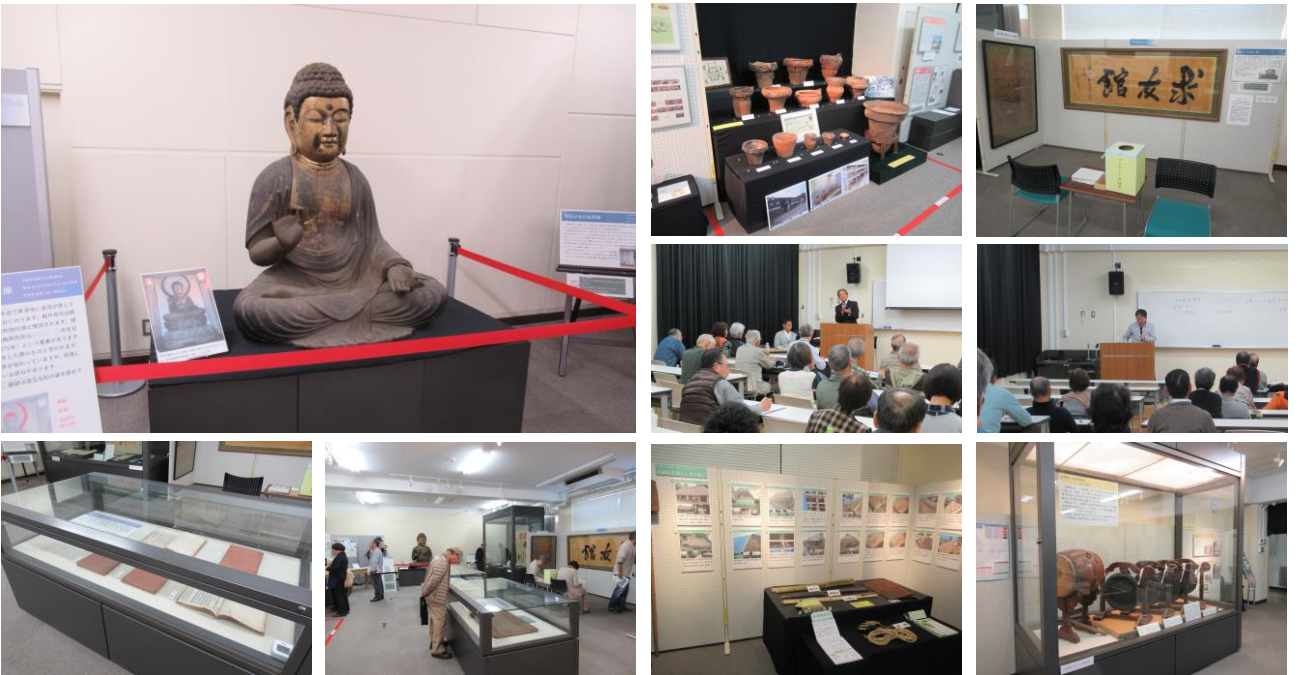


No.49 深鉢(加曾利 E II)



No.50 手づくね土器

所沢市文化財展(2018年11月6日～11月18日 於：生涯学習推進センター 3階企画展示室)



平成30年11月6日～18日の期間、所沢市文化財展が開催されました。平成26年度から隔年で実施され今回で3回目となります。所有者のご協力もあり、通常では見ることのできない文化財も公開される、貴重な場となっています。来場された方々からは、「間近に見て感動した」「昔懐かしい気持ちになった」「色んな文

化財を初めて知った」など、所沢の新たな魅力を発見したような感想を多くいただきました。

また関連事業として、新指定となった縄文土器に関する講座と、修復工事を終えた小野家住宅の茅葺屋根に関する講座を開催しました。講師の丁寧な説明により、展示資料だけでは得られない知識や背景を学ぶ機会となりました。

文化財展の準備の裏側



今回の最大の展示物は、市内本郷にある東福寺「木造阿弥陀如来坐像」です。本来は光背と台座を合わせ約2.4メートルの高さがありますが、残念ながら会場事情により一緒に展示できませんでした。30年以上動かすことのでなかった像を美術運搬のプロが4人で運びました。

専用の箱を用意し、傷がつかないように細心の注意を払いながら梱包します。ご住職も「こんなに間近で見るとはなかった」とのこと。想定外の重量に、作業員の方々も当初苦戦していましたが、次第に手際よく仕事を進め、約50分で仏像はトラックへ無事に収まりました。